



Viva Brasil★

平成23年度 ブラジル通信
11月5日(土)~11月11日(金)
No. 10
発行者: 宮本 朋子

創立20周年記念式典&学習発表会

11月6日(日)に、ACEMA(マリンガ文化体育協会)にてマリンガ地区日本語学校連合会創立20周年記念式典と第17回学習発表会が開催されました。式典では、創立から連合会の活動に尽力した人の表彰式が行われました。その中で、将来連合会を引っ張っていき、国際的に活躍できる後継者を育てるため、1995年にリーダー会が発足された話がとても興味深かったです。この会は、14歳以上の青年が入っており、連合会で行われる行事の準備や運営、林間学校のプログラム作りなどを通して、いつでもどこでもリーダーシップをはかれるような人材を育成しています。そして、日本文化を学ぶ中で、日本人のもつ正直さ、勤勉さを身につけてほしいと



多くの方が表彰されました



♪うんとこしょどっこいしょ♪

みんなで力を合わせていきましょ

の願いが込められていました。

また、学習発表会では、連合会に所属しているそれぞれの日本語学校による発表が行われました。合唱や踊り、劇など、全12組が出演しました。パラナヴァイ日本語学校も初参加ということで、「大きなかぶ」の劇をしました。『かぶが抜けたのは、おじいさんとおばあさんの力だけでなく、共に生活するみんなで力を合わせたから。ここブラジルでも日系人とブラジル人が協力し合って、未来の子どもたちのためによりよい社会をつくり上げていきたい』というメッセージが込められていました。現在、日系3世あたりの人から、親のしつけ方によって、日本人らしい人とブラジル人らしい人に分かれてきており、継承されている日本文化も少しずつ変化しているように感じました。特に、目に見えてわかるのが言語です。正しい日本語を絶やさぬためにも、日本語教育を大切にしていってほしいと思いました。

パラナ老人福祉和順会訪問

和順会とは、家族などの身寄りがなく、経済的にも恵まれない日系人の老人を無料でお世話する老人ホームです。今年で36年目を迎え、現在57歳~100歳までのお年寄り31名が入居しています。そのうち日系1世の方が13名いるため、日本政府からの援助も受けています。

また、国内協力者1,350名、日本国協力者80名と、多くの人の支援のもと運営されています。施設がとても広く、部屋もきれいに整備されており、入居しているお年寄りの方々に話しかけると、笑顔で昔の話をしてくれました。



週3回の手芸教室

地域の高齢者も参加しています



日あたりもよく、風通しのいい部屋です



施設内にある日伯寺



大晦日の日に徳付鐘をつきます



マリンガ日本語学校訪問

児童の習字作品



力強さを感じます

ACEMAにあるマリンガ日本語学校を訪問しました。この学校では、120人（日系人80%、ハーフ15%、非日系人5%）の子どもたちが日本語を勉強しています。幼稚園（3歳～6歳）と初級3クラス、中級2クラス（7歳以上）があり、月曜～木曜までは通常授業で、金曜は習字や音楽などの日本文化を勉強しています。現在は12月に行われる日本語能力試験に向けた学習を進めているそうです。この他に、英語のクラス（50人）やポルトガル語の基礎クラス（1人：80歳）もあります。今までに面談した子どもたちとの話の中でも、会話のポルトガル語はできても学習は難しいということを知っていたので、現在生徒は1人しかいませんが、これからもポルトガル語クラスを継続して行ってほしいとお願いしました。

この学校の素晴らしいところは、子どもたちに目標をもたせて学習を進めていることです。そのため、JICA生徒研修（13～15歳）や弁論大会（15～17歳）では、毎年勝ち残り、日本へ渡航している生徒がいるくらい、教育レベルも高いです。先生方もとても勉強熱心で、定期的に行われる学習会に積極的に参加しているそうです。しかし、学校運営は厳しく、課題もあるといえます。現在マリンガ市においても学校が1日制への移行を始めているため、今後は夜のクラスや土曜クラスを開設していかなければならないそうです。また、日本語の読み書きを勉強しても、日本語を使わない家庭が増えてきたため、会話につながらなくなってきたといえます。授業内容の改善や交換留学（短期）のような日本で研修できる交流をしていきたいという話題もあがりました。面談を通して、先生たちの日本語教育への熱い思いが伝わってきました。

ACEMA	会 員	非会員	授業時間	
幼稚園	毎日	R\$105	R\$125	≪2回≫ ① 8:30～10:30 ② 13:30～15:30
	週3日	R\$ 90	R\$110	
初・中級	毎日	R\$100	R\$120	≪3回≫ ① 8:30～10:00 ② 13:30～15:00 ③ 15:30～17:00
	週2日	R\$ 85	R\$105	
	週1日	R\$ 50	R\$ 60	

日本語を使わない家庭が増えてきたため、会話につながらなくなってきたといえます。授業内容の改善や交換留学（短期）のような日本で研修できる交流をしていきたいという話題もあがりました。面談を通して、先生たちの日本語教育への熱い思いが伝わってきました。

マリンガ州立大学 日本語研究所訪問

マリンガで私の通訳をしてくださっている宮本アリッセさんが勤めているマリンガ州立大学日本語研究所を訪問しました。この大学では、約2万人の学生が勉強しており、67の学部がある総合大学です。その中に、日本語を学習できる研究所があります。州立大学は試験に合格した学生が無料で通うことができますが、この研究所は14歳以上の日本語を学びたい人なら誰でも通うことができます。月謝は、州立大学生はR\$31（約1550円）で、それ以外の人はR\$77（約3850円）となっています。1時間40分の授業が週2回あり、6人の先生のもと、70人の生徒（30%が非日系人）が学習しています。初級・中級・上級がレベル別に1～4クラスまであり、それぞれ半年コースとなっているので、6年間で全コースを修了することになります。最近では、非日系人や日本で小中学校を過ごした生徒が増えてきており、日本語の文法をポルトガル語で説明できる指導者育成や会話を中心としたコース作りなどを進めているそうです。ここでもポルトガル語を教える教室を併設することで、日本から帰国した子どもたちを支援して行ってほしいとお願いしました。

研究所の前は小さな日本庭園



教室の入り口にある姫路城の写真



上級クラスでは、日本語で会話しています



兵庫県若手地域農業リーダー海外派遣団との交流

兵庫県の若手地域農業リーダー海外派遣団が来伯することで、視察を同行させていただきました。派遣団は、引率2人（県庁職員と学校職員）と13人の大学生と農業高校生の15人で構成されており、16日間の日程で各地を訪問していきます。この事業は、今年で33回目となるようで、ブラジルに移住した日系人の足跡をたどり、開拓精神を学ぶことで見聞を広めることを目的としていました。派遣団員は、それぞれ研修テーマをもって参加しており、積極的に質問したり交流したりしていました。



最初に、日本人ブラジル移民100周年記念として建設された「日本公園」を訪問しました。入り口にある大きな鳥居を通ると、移民モニュメントの記念碑が私たちを迎えてくれました。日本の伝統文化を具体化するために作られた公園で、2006年から建設が始まり、あと約2年で完成予定です。10万平方メートルの広さを誇る公園内には、ギャラリーや茶室、滝のある池などがあります。また、スポーツ複合施設もあり、柔道教室や大会が行われているそうです。今後は、日本ブラジル文化センターやレストランを建設する予定で、完成したらぜひもう一度訪れてみたいと思いました。

午後からは、日系人の駒込さんという方の農場に行きました。広大な農地で農業を行っており、日本米や和牛も育てていました。説明を聞きながら熱心にメモをとる団員の姿が、とても印象的でした。



派遣団員との交流を通して、やはり本物を体験することは大切だと思いました。今回の派遣費用は、全体の半分である33万円が個人負担で、残りの半分は兵庫県が負担しているそうです。事前研修が3回あり、最後の研修は1泊2日で、団員交流や言語研修などを行ってきたそうです。豊橋の子どもたちにもブラジル文化を体験できるような事業が展開できたらいいなと思いました。



ぶらっとブラジルク・イ・ス♪



友達の誕生日会に招待され、プレゼントを片手に行ってきました。そこで、変わったケーキの切り方を見ました。さて、ブラジルではどんな風に切るのでしょうか？

- ① 真ん中を丸く切って、その周りを均等に切る
- ② 真ん中で半分に切って、縦に均等に切る
- ③ 大きいスプーンで隅から均等に分ける



答え：①（ブラジルでは誕生日をとっても大事にします。特に、15歳を迎える誕生日は豪華で、昔、社交界へデビューする年齢が15歳だったことから、節目の誕生日として盛大に祝うそうです。）